様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ９ 月 １０ 日現在

機関番号：３４５０６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2017
課題番号：２４５２０３３０

研究課題名（和文）２０世紀アメリカ小説にみる同時代貨幣制度との共振

研究課題名（英文）The Interrelationship between 20th Century American Fiction and Its Cpontemporary Monetary System

研究代表者
秋元　孝文（Akimoto, Takafumi）

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：７０３３０４０４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円

研究成果の概要（和文）：科研費の給付を受けている期間中に２回の学会発表と3本の論文という形で、Scott FitzgeraldのThe Great Gatsby, Herman Melvilleの”Bartleby, the Scrivener,”Jack London のThe Assassination Bureau Ltd.についての考察を発表した。
これまでにすでに発表してきた6本の論文を加えた計９本の各論をまとめる形で2018年秋に一冊のまとまった単著として出版の予定であり、本研究計画中は当該期間においてのみならず、より長期的なスパンにおいても多大な成果をあげたと言える。

研究成果の概要（英文）：In the duration sponsored by JSPS I had 2 presentations at confereces and published 3 papers on Scott Fitzgerald's The Great Gatsby, Herman Melville's "Bartleby, the Scrivener,”and Jack London's The Assassination Bureau Ltd. With 6 previously published papers, these papers are going to be compiled in a monograph and published in the fall of 2018.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：アメリカ文学　紙幣

１．研究開始当初の背景

アメリカは西洋世界ではじめて政府発行の紙幣が流通した場所であり、植民地から、独立、南北戦争、といった政治体制の変化を経てその紙幣制度も常に変遷してきた。政府ではなく各銀行が自由に紙幣を発行した時代はとくに、各紙幣が場所によっては額面以下にしか受け取ってもらえなかったり、あるいは南北戦争時には流通していた紙幣の６０％が偽札であったり、と紙幣の価値は現在のように所与のものとはみなされず、むしろ怪しげなものであった。こういったアメリカ史における紙幣のフィクション性を鍵にすることによって、同じくフィクションである文学作品における想像力の変遷との間に相互関係を発見することを課題として、当計画従事者はこれまで研究を進めてきた。

本研究の前身として科研費の給付を受けた課題において、マルクスやジンメル、岩井克人の貨幣論を援用しつつ、Benjamin Franklin, Horatio Alger, Herman Melville, Mark Twain, Frank Baum など、19 世紀のアメリカ文学作家・作品を対象とした各論をいくつか完成し、その成果は、全国規模の査読つき学会誌に掲載された 2 本の論文を含む 6 本の論文として結実していた。

こうした研究活動の結果、本課題に取り組むための基礎となる理論的土台はある程度完成しており、そのなかで得た知見をもとにさらに 20 世紀の各作家・作品へと射程を延ばし、これまでの研究に接続する形で、アメリカ文学史全体を通時的にとらえた「アメリカ文学・貨幣論」を完成させることが本計画の目的である。そのなかでこれまでの知見をさらに深め、アメリカ文学に対する新しい見方だけでなく、貨幣に対する新しい見方をも発見することを目指した。

２．研究の目的

本研究は、20 世紀アメリカ小説における想像力と同時代のアメリカの貨幣制度のあいだに共振する関係を読み込もうとするものである。これまでに成果を挙げてきたアメリカ文学と貨幣の関係に関する研究を、20 世紀に射程を延ばし、アメリカ文学史を通時的にとらえた研究としてまとめることを目的とする。文学も貨幣も同時代の価値観のパラダイムに属し、ともに表象でありフィクションであるという点においても、実は通常対極に置かれる両者の関係は非常に近い。20 世紀のアメリカ小説を題材として、そこで描かれる想像力がいかに貨幣制度と共振しているかを明らかにし、アメリカ文学研究の新たな側面を開拓すると同時に、文学と経済という学問領域の垣根を越えた斬新な文化研究を目指すものである。

３．研究の方法

本研究は 20 世紀アメリカ小説とアメリカ貨幣制度の関係を考察することを目的としているため、小説と貨幣のみならず同時代の政治的議論、経済的潮流に関する調査が不可欠である。米国でのリサーチと資料の読解を出発点に、同時代のあアメリカ文学作品を取り上げ、各論の完成を目指した。

具体的には Scott Fitzgerald, Herman Melville, Jack London の 3 人の作家について考え、それぞれ *The Great Gatsby*, “Bartleby, the Scrivener,” *The Assassination Bureau Ltd.* といった作品が対象となる。

最終年度までにはある程度 20 世紀アメリカ文学史を通時的にとらえる構成を整え、これまでの研究成果とともに一冊のまとまった研究書として出版し、国内外の学会および広く一般の読者層にその意義を問う予定であった。結果的には本研究計画最終年に出版助成に内定し、2018 年秋に一冊のまとまった研究書を出版し、成果を広く問う予定である。

４．研究成果

科研費の給付を受けている期間中に２回の学会発表と 3 本の論文という形で、Scott Fitzgerald の *The Great Gatsby*, Herman Melville の ”Bartleby, the Scrivener,” Jack London の *The Assassination Bureau Ltd.*についての考察を発表した。

The Great Gatsby 論では、作中で Dasy が Gatsby に対して言う「あなたは広告に似ている」という奇妙な物言いを出発点として、Gatsby がベンジャミン・フランクリン的なセルフメイドマンであり類似した自己鍛錬を用いながらも、貨幣に対する両者の態度は相反し、それが吝嗇と浪費という異なった態度となっていることを指摘した。

ここから導かれるのは「時は金なり」と言ったフランクリンの貨幣観がギャツビーにおいてはないこと、そして作品の背景となっている 1920 年代のアメリカでは消費社会が開花し、借金が増え、分割払いが導入され、すなわち、未来の時を貨幣をもって購入するようになった、つまりは「時間を金に換える」から「金を時間に換える」という転換があったという事実である。消費社会はモデルチェンジを導入することで計画的に「古くて価値のないもの」を作り出し、相対的に新しいものの価値を高めた。

ギャツビーが最終的に命を落とすのは、常に最新型であろうとしてきた彼のモデルチェンジが時の流れに追い越されたからであり、「金を時間に換える」ことも過去の時間に関しては不可能だからだという結論を導いた。

本論は 2013 年九州英文学会でのシンポジウム「アメリカ文学とお金」での口頭発表を経たのちに『甲南大学紀要　文学編』165 号に掲載。

“Bartleby” 論ではメルヴィルのこの奇妙な短編で反復される決まり文句が事務所の

他の者たちに複製されることに注目し、バートルビーがその複製に対して異議を表明しているのだと論じ、そこに貨幣とのアナロジーを導入する。ことばも貨幣もすべてがコピーであり、オリジナルは存在しないのだ。南北戦争時に南部で作られたファンタジー紙幣を例に、真正であることの根拠を外部にしかもちえない貨幣は常にその真正性を循環論法に依拠し、流通さえしてしまえば、流通していることを根拠に、真正ではなくとも真正だとして成立してしまうことを指摘し、さらにはバートルビーという作品じたいがバートルビーという人の複製であり、われわれ読者の解釈においてもバートルビーと所長の関係が複製され、われわれは所長同様に I would prefer not to という返答を作品から聞くばかりである、そしてそこでは問いかけていたはずの読者の方が語らされることとなる。

本論は『甲南大学紀要　文学編』163 号に発表。

Jack London に関しては未完のまま遺稿として残されたのちに出版された *The Assassination Bureau, Ltd.* という作品の成り立ちが、もともとはアメリカ初のノーベル文学賞受賞者であるシンクレア・ルイスが、作家になる前にロンドンに売ったプロットに基づいていることと、ロンドンがそれを作品化しようとしたのに完成できなかったこと、その結果ロンドンの死後にロバート・フィッシュが書き足して完成した、という複数の人間の手が入っており、さらにはロンドンとフィッシュのそれぞれにメルヴィルとポーの影響が見られることを指摘し、それでも著者名としてジャック・ロンドンが付されてロンドン作品として流通しているという事実が、作家としての名声にこだわり、名前があれば売れるのだと信じた企業家的なロンドンの側面と一致しており、その意味ではむしろ非常に「ロンドンらしい」作品であることを指摘した。

本論は『甲南大学紀要　文学編』168 号に発表。

以上、当該期間に発表した 3 本の論文を、これまでにすでに発表してきた 6 本の論文に加えた計９本の各論をまとめる形で、2018 年秋に、アメリカ文学における紙幣的想像力についての、一冊のまとまった単著として出版の予定であり、本研究計画中は当該期間においてのみならず、より長期的なスパンにおいても多大な成果をあげたと言えよう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　3　件）
・秋元孝文「複製への抵抗: Bartleby と貨幣、そして解釈 」、 『甲南大学紀要　文学編』163 号 （頁 69 ～ 77） 、 2014 年
・秋元孝文「*The Great Gatsby* と貨幣 」、『甲南大学紀要文学編』165 号（頁 49 ～ 55）、2015 年
・秋元孝文「Jack London Co., Ltd. -*The Assassination Bureau, Ltd.* における作者と資本主義-」『甲南大学紀要　文学編』168 号（頁 37～46)、2018 年

〔学会発表〕（計　2　件）
・秋元孝文　英文学会九州支部大会 シンポジウム「アメリカ文学とお金」　発表タイトル「*The Great Gatsby* と貨幣」2013 年 10 月 於鹿児島国際大学
・秋元孝文　岡本アメリカ・イギリス文学研究会 、発表タイトル「Jack London, *The Assassination Bureau, Ltd.* における作家と資本主義」2015 年 03 月 於甲南大学

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
秋元　孝文（AKIMOTO, Takafumi）
甲南大学・文学部・教授
研究者番号：70330404

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者

（　　）